



第5回 （仮称）平和資料館開設準備懇話会

日 時：令和4年1月14日（金）

14：30～16：00

場 所：15C会議室（本庁舎15階）

次 第

1 開 会

2 報 告

- （1）「平和のまちミュージアム」開館に向けた取り組みについて
- （2）第4回懇話会における委員の意見について
- （3）「北九州市平和のまちミュージアム条例」の概要について

3 議 題

- （1）懇話会における委員意見の整理及び今後の方向性について

4 閉 会

（仮称）平和資料館開設準備懇話会の目的・進め方について

1 目的

市民に戦争の悲惨さ等を後世に伝え、平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけとする（仮称）平和資料館（以下「資料館」という）の開館に向けて、自主事業や管理・運営体制等について、具体的な検討が必要であるため、専門的な見地からの意見を聴取する「（仮称）平和資料館開設準備懇話会」（以下「懇話会」という）を開催する。

2 開催期間

令和元年8月～令和4年4月（5回程度）

3 懇話会の進め方（意見聴取事項）

開催日等	意見聴取事項
（令和元年度） 第1回：8月27日（火）	○（仮称）平和資料館基本計画・実施設計 ○コンセプトに基づく展示内容の整理 ・プロローグ（導入展示） ○館の自主事業（展示以外）
第2回：1月30日（木）	○コンセプトに基づく展示内容の整理 ・戦前の北九州 ・戦争と市民の暮らし ○館の管理・運営（ボランティアの導入）
（令和2年度） 第3回：8月26日（水）	○コンセプトに基づく展示内容の整理 ・空襲の記憶 ・運命の昭和20年8月8日・9日 ・戦後の復興 ・エピローグ 等 ○館の管理・運営（戦時資料の収集）
（令和3年度） 第4回：7月 1日（木）	○事業計画（名称、料金、開館時間等）について
第5回：1月14日（金）	○懇話会における委員意見の整理及び今後の方向性について

4 懇話会後の取り組み

懇話会の構成員（委員）の意見を参考に、自主事業や管理・運営体制等をまとめ、事業計画を作成する。

(仮称) 平和資料館開設準備懇話会構成員名簿

1 構成員名簿

氏 名	所 属 等
後藤 みな子	一般社団法人 北九州文学協会理事長
◎ 近藤 倫明	北九州市立大学名誉教授
佐方 はるみ	九州女子大学人間科学部特任教授
篠崎 桂子	長崎原爆資料館館長
戸高 一成	呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）館長
風 恵美	松永文庫 室長代理
○ 羽田野 隆士	北九州商工会議所 専務理事
吉水 請子	極東ファディ株式会社 取締役

◎座長 ○副座長

(敬称略・50音順)

2 市側名簿

氏 名	所 属 等
高松 浩文	総務局長
末吉 和久	総務局総務部長
田爪 康隆	総務局平和のまちミュージアム担当課長

【事務局】

総務局総務課（平和のまちミュージアム担当）

報告（１）

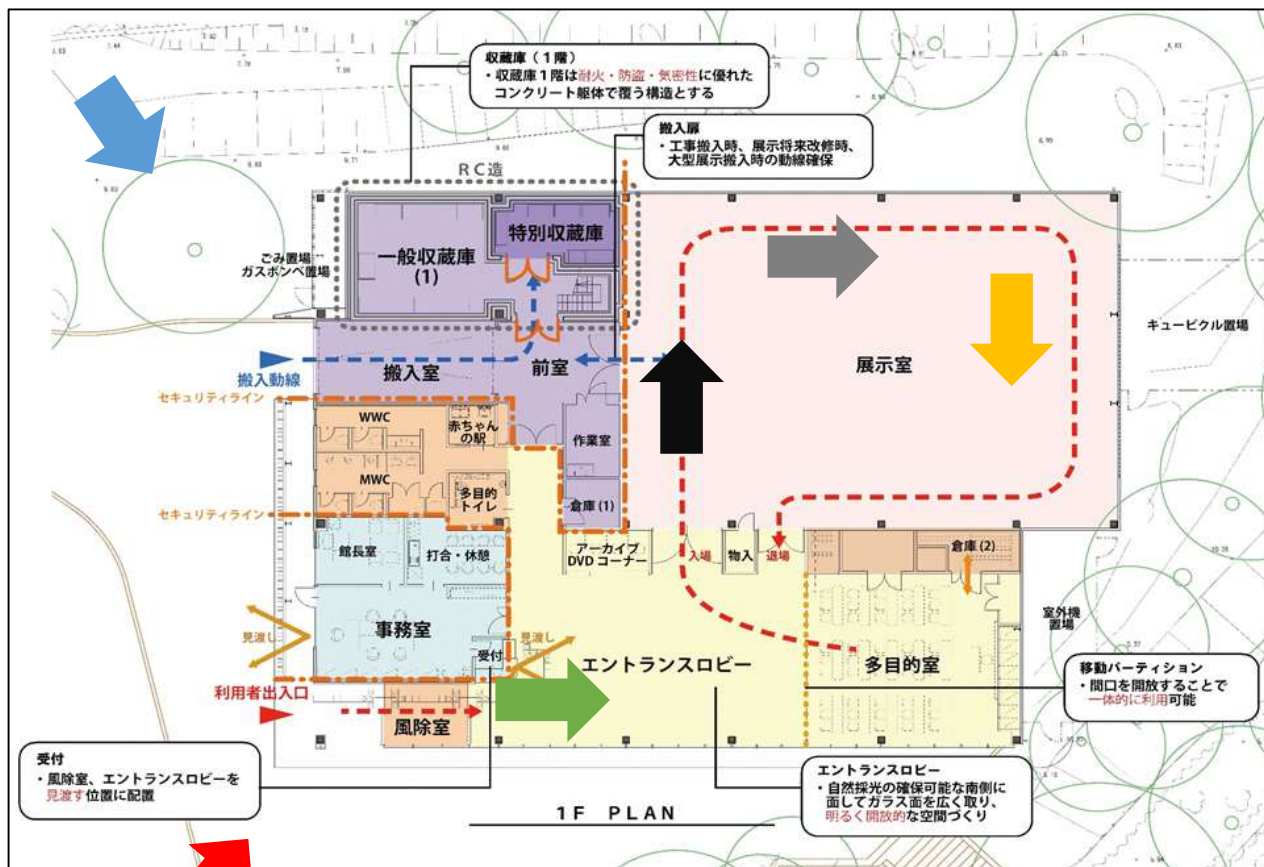
平和のまちミュージアム開館に向けた取り組みについて

（説明資料）

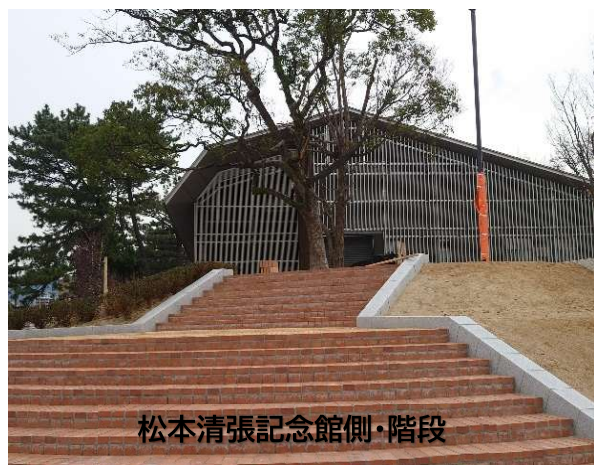
- ・ 建設工事の進捗状況（令和４年１月）
- ・ 近隣の小中学校に向けたＰＲ

建設工事の進捗状況（令和4年1月）

■全体図



■松本清張記念館前から



■子ども図書館側前から



■子ども図書館側から
(エントランス・多目的室)



エントランス・多目的室

■展示室①
(奥に小倉陸軍造兵廠映像展示)



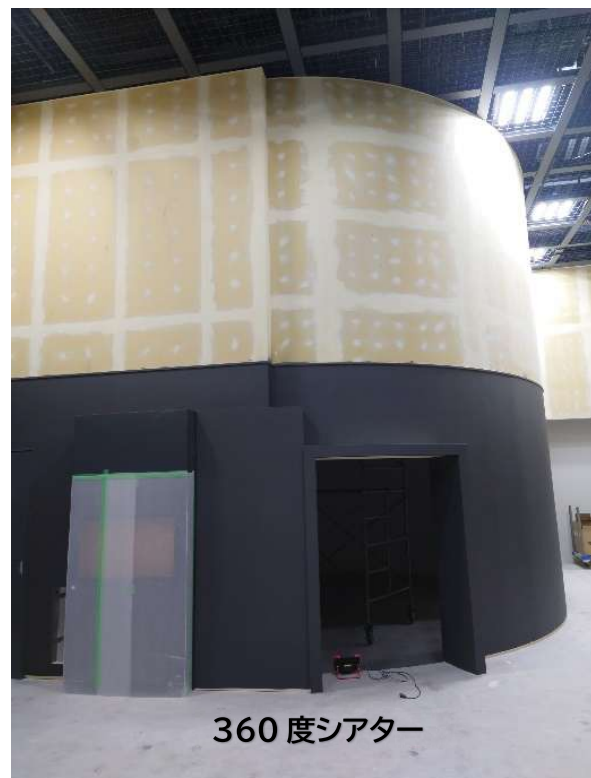
展示室①

■展示室②
(右側に生活再現展示)



展示室②

■展示室③
(運命の昭和20年8月8日コーナー)



360度シアター

近隣の小中学校に向けた P R

■敷地内に植樹する「嘉代子桜」の苗木を西小倉小学校児童へ贈呈（令和3年7月14日）

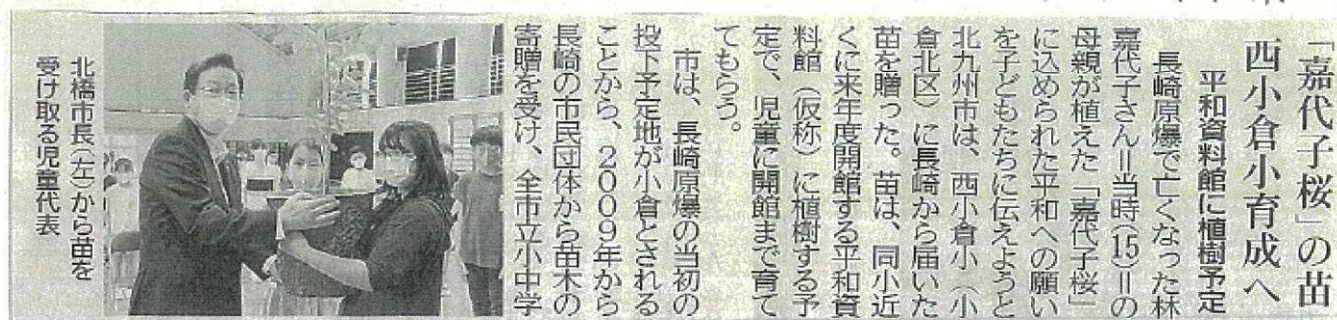
平和の願いが込められた「嘉代子桜」を「平和のまちミュージアム」の敷地に植樹するため、小倉陸軍造兵廠の跡地に建設された「西小倉小学校」児童（5年生）に苗木のお世話をお願いした。

当日、西小倉小学校では、「嘉代子桜」が生まれた歴史を学ぶ平和授業を行い。その後、苗木の贈呈式を開催し、北橋市長から児童代表に苗木を贈呈した。

（苗木贈呈の様子）



（新聞記事）



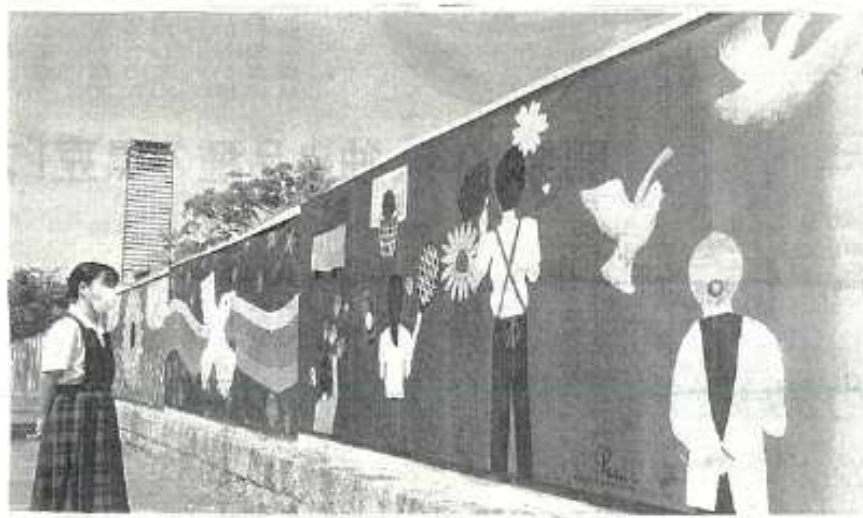
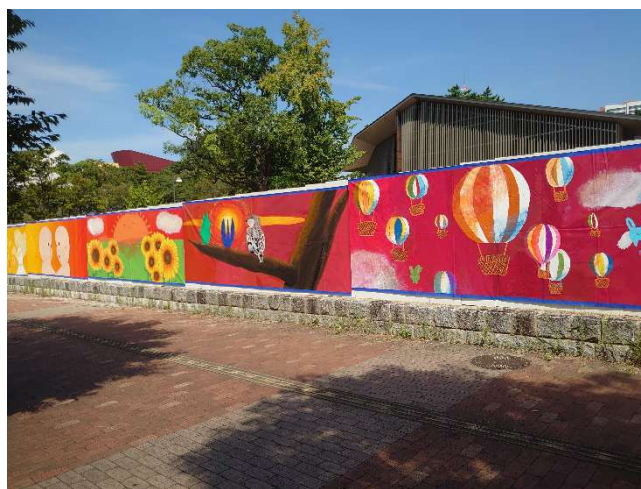
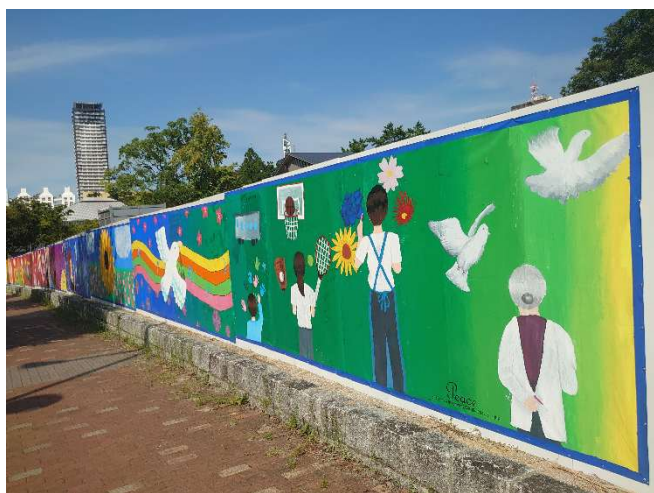
令和3年7月27日 西日本新聞
※朝日・読売・毎日新聞にも掲載

校などに植えてきた。
苗は14日、北橋健治市長が同校に持参。高さ180センチほどで、来春ごろにはつぼみが付くという。
全児童は各教室で嘉代子桜の紙芝居をテレビ視聴した後、体育館に移動。代表の一人として苗2鉢を受け取った6年の土生薫さん（12）は「世界から戦争がなくなるよう思いを込めて大切に育てたい」。北橋市長は「長崎と北九州は深い関係にある。桜を通して平和の大切さを学んでほしい」と話した。（野間あり葉）

■思永中学校美術部生徒による「平和」をテーマに描いた絵画を工事現場フェンスに展示
(令和3年8月31日～12月8日)

建設工事の仮囲いフェンスを活用して、「思永中学校美術部」に「平和」をテーマにした絵画の制作をお願いした。

美術部に在籍する1年生から3年生、計61名が長さ5メートルのキャンパス10枚に描いた(全長約50メートル)。 8月31日から12月8日まで掲示した。



北九州市が小倉北区で建設を進めている戦争資料展示施設の工事現場で31日、市立思永中の美術部員が平和をテーマに描いた絵の展示が始まった。

平和 どこまでも
小倉北 中学生61人描く

タイトルは「Peace」で、市の依頼を受けた同中の美術部員61人が7～8月に制作。作品は縦1.8m、横5mのシート10枚に、ヒマワリやハト、気球などが描かれている一写真。通りに面した工事現場のフェンスに掲げられ、自由に見学できる。

部長の豊増葵さん(15)は「世代を超えて平和が続くようにとの思いを込めて描いた」と話していた。展示は11月末まで。

令和3年9月1日 読売新聞

※朝日新聞にも掲載、NHKニュースでも生徒のインタビュー等が放映された

報告（２）

第４回懇話会における委員の主な意見等について

（説明資料）

- ・ 第４回懇話会における委員の主な意見等について

第4回 懇話会における委員の主な意見等

■議題：事業計画の策定について

●入館料・開館日・開館時間

- ・近隣施設とのバランスはあるが、戦争をテーマにした施設なので、若者からすると高いお金を払って見ようというのは難しい。入館しやすい100円や200円ぐらいの設定が良いのでは。
- ・入館無料は良くない。無料だと展示を見る人は、値打も“タダ”だと思われる。やはり、一定の料金を示して、その中で、団体割引等を行うのが正しい。
- ・運営を考えると市外から多くの人が来るような仕組みを考える必要がある。近隣にある「松本清張記念館」や「文学館」との共通チケットを作るということも意識すべき、市内にできるだけ滞在してもらえそうな仕組みを考えてほしい。
- ・開館日や開館時間についても、近隣施設とタイアップするなら、揃えることが必要である。
- ・イベントの時は無料にする、無料開放日を設ける等、目的に応じて無料を設定することも一つの考えである。

●正式名称

○「平和祈念館」・「平和記念館」

- ・「きねん」は長崎の原爆式典では「祈念」を使っている。広島では「記念」を使っている。それぞれに意味があるが、あまり変わりがないというのが率直な感想。
- ・「祈念」の「祈」の文字には美しさがあり、惹かれる。平和を普遍的に祈っていくべきものと感じられる。
- ・「祈念」は将来的に祈っていくことを表すが、「記念」は思い出に残すことなので、施設の趣旨からすると「祈念」が良いのでは。

○「平和都市歴史館」

- ・「平和都市歴史館」は意味が広いが、都市を起点に、平和を訴えていくことは良い。「平和都市記念館」というように文字を組み合わせてもいいのではないか。
- ・「都市」の響きは現代的で良い。また、「都市」は成長を感じさせる。「東アジア文化都市」や「SDGsみらい都市」等、最近では「都市」という言葉を使っている。
- ・「歴史」という言葉は人によって歴史観が異なるので、使用しない方が良いと感じる。

○「平和伝承館」

- ・幅広い世代に伝えるという意味なら「伝承」がいい。
- ・「伝承」は施設のコンセプトを表していると思うが、最近では、震災関係の施設に使われていると感じている。

○「平和都市ミュージアム」・「平和のまちミュージアム」 ※提案のみ委員意見無し

- ・博物館、美術館、記念館を表す言葉で「ミュージアム」がある。市内には行政以外にも、TOTOミュージアム、ゼンリンミュージアムがある。行政では、漫画ミュージアムがあり、「ミュージアム」という言葉は市民に近く、分かりやすい。
- ・漢字とカタカナを組み合わせると名称は長くなるが、それぞれ独立した意味を持つ。例えば、「平和都市ミュージアム」で多くのことが含まれる。
- ・未来に対して、学んでいく方向性も必要である。子供たちに分かるように「都市」を「まち」に変えて、「平和のまちミュージアム」ではどうか。

【参考：市議会からの意見（令和３年９月）】

（管理運営）

- 平和のまちミュージアムの管理運営については、民間の指定管理の導入や開館日数の調整、利用料の適正化などし、税金の負担は少しでも下げ、本市にとって真に必要な税金の使い方を選択すべきではないか。
- 平和のまちミュージアムは、戦争を知らない子どもたちの平和学習の場として、大いに活用してもらいたい。
- 戦後７６年になり、今が戦後資料を収集できる本当の最後のチャンスではないのかと思っている。「平和のまちミュージアム」の建設を契機に、本市も再度大々的に戦時資料等の提供を訴えてはどうか。

（加害・被害に関する展示）

- 展示については、日本が「被爆」、「戦争の犠牲者」だけでなく「加害者」であることも必要である。アメリカにとっては、日本は、真珠湾攻撃をし、参戦した国であって、「加害者」であることは当然のことだと思う。
- 当時の日本が「加害者」で、アメリカが「被害者」であるという認識は、非常に難しい。平和のまちミュージアムではそういったものを提示することではないと思っている。やはり、戦争の悲惨さ、戦争したときには、どちらの国も、犠牲になるのは国民、子どもたちである。そういうことが伝わるような、ミュージアムにしてもらいたい。

報告（３）

「北九州市平和のまちミュージアム条例」の概要について

（説明資料）

- ・「北九州市平和のまちミュージアム条例」の概要について

「北九州市平和のまちミュージアム条例」の概要について

1 条例の主な内容

(1) 目的及び設置場所（第1条）

目的：先の大戦における戦争被害、戦時下の人々の暮らし等に関する資料の収集、保存、展示等を行い、市民に戦争の悲惨さを伝え、市民が平和の大切さや命の尊さを考えるきっかけとする。

場所：北九州市小倉北区城内4番10号

(2) 事業（第2条）

- ・資料の収集・保存や調査・研究、展示に関する事業
- ・平和に関する学習機会の提供や多世代交流の促進に関する事業 等

(3) 入館料（第5条・別表）

近隣の歴史・文化施設との均衡を図り、料金等を設定する。

区分	料金区分		
	一般	中学生・高校生	小学生
個人	200円	100円	50円
団体（30名以上）	160円	80円	40円

(4) 入館料の減免等（第6条）

公益上、その他特に必要に応じて可能となる入館料減免についての規定
具体的な減免項目は別途、定める。

【参考：減免既定の例】

- ・北九州市内の小中学校等の児童・生徒が学校教育等で引率者とともに、観覧するとき（引率者を含む）
- ・療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳を所持する者 等

(5) 施行期日

規則で定める日

2 開館（休館日）・開館時間（規則で定める）

開館日（休館日）や開館時間は別途、規則で定める。

近隣の歴史・文化施設等との周遊を促進するため、文学館等との均衡を図り、設定する。
また、イベント開催等に応じて、柔軟な設定を行う。

区分	休館日（館内整理日は除く）
休館日	月曜日・年末年始（12月29日～1月3日）
開館時間	9：30～18：00

議題（１）

懇話会における委員意見の整理及び今後の方向性について

（説明資料）

- ・ 懇話会における委員意見の整理及び今後の方向性について

懇話会における委員意見の整理及び今後の方向性について

(意見交換を行った議題項目)

I 展示コンセプトに基づく展示内容の整理（コーナーでの委員の意見）について

- ・「プロローグ展示」コーナー
- ・「戦前の北九州」コーナー
- ・「戦時下の市民の暮らし」コーナー
- ・「空襲の記憶」コーナー
- ・「運命の昭和20年8月8日・9日」コーナー
- ・「戦後の復興」コーナー
- ・「エピローグ展示」コーナー
- ・その他

II 自主事業（展示以外）について

- ・子どもから大人まで学びを深めるための取り組み
- ・近隣の施設や学校等との連携による来館者の確保のための取り組み
- ・活動や魅力等を発信するための取り組み

III 管理・運営について

- ・ボランティアの活用
- ・学芸員の配置
- ・資料の収集
- ・戦争体験の収集

I 展示コンセプトに基づく展示内容の整理について

1 「プロローグ展示」コーナー



(委員の主な意見)

- ・多世代の来館者が、なぜここに資料館があるのか、その場で理解でき、来館者を、資料館に導入できるような仕掛けは必要である。
- ・アメリカ軍が“なぜここに原子爆弾を落とそう”と思ったのか。誰が見ても分かるようにするためには、もう少し分かりやすい何かが必要である。
- ・長崎原爆資料館では、原子爆弾が投下された11時2分の時計を展示して「長崎を最後の被爆地に」というメッセージを出している。小倉の位置づけの表現は難しいが、訴えたい事を最初に示すのもひとつのアイデアである。

今後の方向性

- 原子爆弾の投下目標地であった事実を伝え、“なぜ、ここに、この施設があるか”を実感できる展示
- 施設の世界観に没入できる展示

2 「戦前の北九州」コーナー



(委員の主な意見)

- ・風船爆弾の仕組みや製造方法に関する展示では、当時、女子挺身隊の方が風船爆弾の製造に係わっていた。その記録等が大事だ。
- ・小倉陸軍造兵廠を、子どもたちに教える時に、当時、全国に造兵廠はどのくらいの数があるか、そのうちのひとつが小倉にあるということも紹介してはどうか。

今後の方向性

- 女学生等の体験談を活用した展示
- 小倉陸軍造兵廠を紹介するため、当時の日本の兵器工場の状況等を説明する展示

3 「戦時下の市民の暮らし」コーナー

戦争と市民の暮らし(市民の暮らし)

**戦時下の暮らしを伝える日用品等の実物展示や実物資料を効果的に見せる
紗幕展示。戦争によって大きく変わった市民の暮らしを感じる。**

戦争と市民の暮らし
戦時下の戦況を守った市民の暮らしや子どもたちの遊び、学校生活を紹介する。

(市民の暮らし)
出征する兵士たちと戦時下の厳制と節約の中で生まれた市民の暮らしを知る。





出征や戦時下の暮らしに関する資料

実物資料
現在、戦争資料展示コーナーなどに保管されている市民から寄贈された様々な実物資料を展示。



千人針は、出征する兵士の無事を祈願したお守りとして作られた。戦後の人々が思いを込めてひと針ひと針縫いつけた。

【映像装置】国防婦人会

映像資料・映像
出征する兵士と国防婦人会の活動について、衣類の実物展示と映像を連動させて解説する。資料が選んで見える紗幕に投影する演出手法を用いる。



イメージ

戦争と市民の暮らし(市民の暮らし)

**生活の基礎となる衣食住を感じることが出来る暮らしの再現展示。
日々の暮らしが戦争ととなりあわせにあったことを実感する。**

戦争と市民の暮らし
戦時下の戦況を守った市民の暮らしや子どもたちの遊び、学校生活を紹介する。

(戦争と子どもたち)
戦争の激化と物資不足に伴い、大きく変わった子どもたちの生活等を体験する。





戦時中の暮らしの再現展示

再現展示
戦時中の一般家庭が生活した室内の情景再現から、暮らしの道具、食事、空襲への備えなど、当時の人々の暮らしについて理解を深める。

再現展示の例

電燈の再現	灯台の再現	時計
ちゃぶ台	ラジオ	電卓



分銅ばかり



おひつ

戦時中の衣類

再現展示
戦時中の衣類を歴史的に着る体験を通して、当時の雰囲気を感じ取るとともに、戦時中の衣類に関する理解を深める。

体験の流れ(例)

- ① 体験者がモニターの前に立ち全身を撮影
- ② 着るべき衣類を選択
- ③ 作成画像が完成



(委員の主な意見)

- ・暮らしの再現展示では、日用品を単に置いているのではなく、それが、どのようなものなのかを、想像させるような工夫が必要である。

- ・暮らしと密接している資料は、来館者が興味を持ち、その頃の暮らしぶりを想像してもらえる資料として貴重なものだ。

今後の方向性

○戦時中の暮らしを理解するため、日用品等の実物資料の使い方等が分かる展示

4 「空襲の記憶」コーナー



(委員の主な意見)

- ・当時の小学校や中学校の教育内容、新聞の報道内容が子どもたちに与えた影響など、戦争に至るまでのバックグラウンドをもう少し入れる必要があるのではないかな。
- ・原爆資料館では感染予防対策として、触れることができる展示にはカバーをしたり、タッチパネルは触れさせないようにするという対策を講じている。

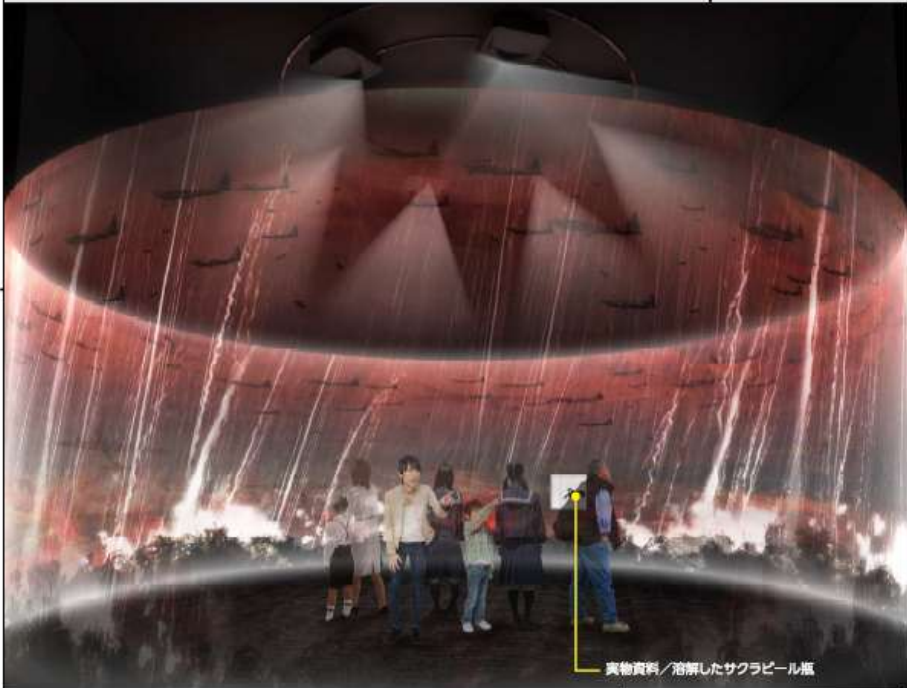
今後の方向性

- 体験者の声に加えて、時代の背景等を伝える展示
- 感染症対策を踏まえた展示

5 「運命の昭和20年8月8日・9日」コーナー

映像や音響技術を活用した360度シアター。
昭和20年8月8日の八幡の空襲、翌9日の原子爆弾を搭載したB29が小倉上空を飛来した後、長崎に向かった2日間の出来事を追体験する。

運命の昭和20年8月8日・9日
8月8日の八幡の空襲をシアターにおける情景再現等を通して、八幡のまちが焼け野原になり、多くの人が被害にあった事実を知る。



実物資料／浴したサクラビール瓶

「運命の昭和20年8月8日・9日」

8月8日の八幡大空襲から9日のB29小倉襲来までの経緯を「後世に語り継ぐ北九州市民の戦争体験」などの証言を基にしたストーリー。

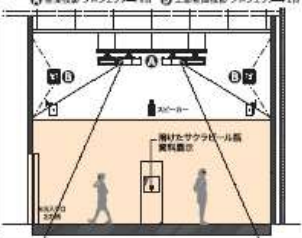
当時の証言と出来事をCGで想定再現し、追体験できるものとする。

360度全周シアターで、臨場感にあふれる空襲の再現映像を床面などの効果を用いながら投影する。

●運命の昭和20年8月8日・9日 ストーリー

- 1. プロローグ** 昭和20年8月の北九州・・・小倉や八幡で生活する人々にとって、臨時下ながら普段通りの生活があった。
- 2. 8月7日～8日** 八幡の人々が避難した時、遠くテニアン島では航空母艦を沈没したB29の大隊が日本へ向けて艦隊の準備をしていた。
- 3. 8月8日の朝** 大空襲当日の8日の朝、学校に向かう子どもたちや勤労者や小倉警備隊員へ向かう学生など、いつもの朝がそこにあった。そして朝10時、B29の大隊が八幡の空に現れた。
- 4. 出撃** 容赦なく降り注ぐ焼夷弾の雨、家は燃えさかり人々は逃げまどいた。防空壕に逃げた人々も決して安全ではなかった。
- 5. 空襲後の静寂** 1時間後、B29が去り過ぎたのは、煙にみみり静寂とした八幡の町だった。
- 6. 8月9日 朝** 前日の空襲の煙がたなびく、北九州の空に3機のB29が現れた。いぶかしく見上げる人々。やがてB29は小倉の空から、次の目標である長崎へ急降下するために向かっていった。

●シアター全体イメージ



（委員の主な意見）

- ・展示ストーリーとして、八幡大空襲があって、翌日にB29が来て、旋回して長崎に行ったことしか紹介していないので、小倉に資料館を建設する必要があったということが、印象として弱いように感じた。
- ・戦争を体験した人は多くないため、事実をきちんと伝えることは非常に重要である。戦争体験者に検証してもらいながら展示の制作をして欲しい。

今後の方向性

- 原子爆弾の投下目標地であった事実を伝え、“なぜ、ここに、この施設があるか”を実感できる展示
- 体験者による時代考証等に関する助言を活かした展示制作

6 「戦後の復興」コーナー



(委員の主な意見)

- ・戦争の被害だけに注目するのではなく、戦後は四大工業地帯と言われるほど、復興したところに脚光を当てるのが、子どもたちにとっての未来志向になる。
- ・長崎には、アジア系の方が多く来るが、長崎は壊滅的な被害を受けたのに、どのようにして、これほど復興したのかと聞かれる。北九州も、大変な努力をされて、復興されたと思うので、紹介できればと思う。

今後の方向性

○戦後復興に取り組んだ企業や市民の努力に焦点を当てる展示

7 「エピローグ展示」コーナー



（委員の主な意見）

- ・資料館の建設の原点である「なぜ小倉に？」というのが「エピローグ」に、もっと表れていいのではないかな。
- ・「エピローグ」では、展示を見た後に、一人ひとりのものとする沈黙思考というような、ゆとりみたいなものも必要ではないかな。

今後の方向性

○展示鑑賞後に、施設の意義や展示感想等の振り返りができる雰囲気づくり

8 その他の意見

(1) 北九州市非核平和都市宣言の展示

- ・非核平和都市宣言や北九州市が平和に対して取り組んできたことは、動線としては最初じゃなくて、最後の方で展示する方がいいのではないかな。
 - ・入口の付近に展示することは、ロビーの中などで入館者の目に触れる機会は多くなるが、入館者の動線を考えると思いのほか足を止めにくいのではないかな。
 - ・動線では目に留まらないなら、パンフレットの形で渡せるほうが親切ではないかな。
 - ・宣言の内容は、展示の中から、それぞれに感じ取ることが一番、重要ではないかな。
- どこに展示するのかということは重要ではなく、展示室を最後まで歩いて「こういうことなんだ」と思うことが一番大切なことではないかな。

今後の方向性

○非核平和都市宣言の内容を実感できる展示や館内でのPRの工夫

(2) 展示の考え方

- ・原爆資料館の展示には、戦前の歴史は入れているが、色んな意見や説があり、検証されているものもあればそうでないものもある。教科書に合わせているが、教科書の内容も変わることもあるので、慎重にやっていかなければならない。

今後の方向性

○小学校の教科書や政府の見解等を参考にした分かりやすい内容に整理した展示解説

Ⅱ 自主事業（展示以外）について

1 子どもから大人まで学びを深めるための取り組み（委員の主な意見）

- ・戦争の映画を多目的室で上映する、戦争文学や地元に関するものを読み聞かせする、食のイベントをやるなど、色んなことをこの場所でやることに意義がある。
- ・長崎県の小中学校は無料で、原爆資料館を年に1回は見学するように、教育委員会とも連携している。地元の皆さんに来ていただくことが大事と考えている。
- ・「SDGs」を関連付けて連携させるような取り組みで毎年、催し物があれば、独自性が生かせるのではないか。
- ・特別展示はとても大事であり、例えば、戦争の時代の背景を持った漫画雑誌や広告のチラシなどを取り上げると、もっと間口を広げて、色々な方に見ていただく機会をつくり、そこから本来伝えたいものを、見たいものにつなげるのではないか。

今後の方向性

- 展示テーマを踏まえ、来館者の幅広い興味に対応するイベント等の実施
- 「SDGs」の取り組み等、子どもたちの学習に関連する題材の提供
- 市内の小学生等が必ず訪問する仕組みづくり

2 近隣の施設や学校等との連携による来館者の確保のための取り組み

3 活動や魅力等を発信するための取り組み（委員の主な意見）

- ・資料館が建つこの場所は、文化施設が集約されており、歩いて散策できる。近隣施設が連携し合うような形が、理想的にできる場所である。
- ・資料館一帯をアートな雰囲気や静かでほっとする空気感を醸すエリアに創りあげる。ライトアップして、カップルで訪れたくなる空間づくりで、雰囲気に惹かれて、資料館に迷い込み、平和について知るという流れもある。
- ・この地に資料館がある意味をどういった形で提示していくか。小学校児童や中高校生だけでなく、幅広い世代に門戸を開くという形でのアイデアが必要である。

- ・多くの人に見てもらうためには、類似の施設と連携して、どんな企画展をやっているかなど情報交換を行い、企画を考える必要がある。

今後の方向性

- 近隣施設と連携した歴史・文化・芸術等に関するプログラムの構築
- 周辺環境を活かした誰もが訪れたいとなるイメージ構築
- 施設の意義等を幅広い世代にアプローチする取り組み

Ⅲ 管理・運営について

1 ボランティアの活用・学芸員の配置（委員の主な意見）

- ・展示解説のボランティアの導入は望ましいが、運用は難しい面もある。研修を行っても、どうしても、その人の主観が入る。
- ・平和学習では、子どもたちに事実を伝えることが必要なので、教育的立場での説明は、専門性のある学芸員や職員が行うべきではないか。
- ・ボランティアの活用は若い人の育成ということなら、子どもたちに影響がない程度の範囲であればいいのではないか。
- ・ボランティアには、いろんな思いで集まっているので、「できること」「できないこと」に分けて、影響のない形に整えてからお手伝いしてもらうのが良い。
- ・学芸員の役割というのはかなり重要。仮に採用するとしたら、長い年月の間、1人か2人で担当することになるので、複数配置が望ましい。

今後の方向性

- ボランティア活動の整理と若い世代の参加促進
- ボランティア活動が与える来館者への影響等を踏まえた運用
- 学芸員を中心とした資料収集・検証体制の整備

2 資料の収集（委員の主な意見）

- ・資料の寄贈は全て受け取ることはできない。仮に受け取ったとしても、コンセプトに基づかないものは展示できないことを伝える必要がある。

- ・ 寄贈を受けて展示するまでの一定のルールは必要。原爆資料館では、毎年夏、その年の6月までに寄贈された資料を収蔵品展として企画・展示している。
- ・ 古いものをどう残すか、減ることはない。重要なのは劣化を防ぐことである。アーカイブ化、映像に撮る等、3次元データとして保存する。新しい物づくりの、この市においての保存の仕方、データの残し方も必要になる。
- ・ 市民の戦争体験談を、映像アーカイブで語っていただくような、音声と映像で後々まで見ることができたら良い。

今後の方向性

○寄贈資料の取扱いのルールづくりや様々な手法を活用した保存や継承方法の構築

4 戦争体験の収集（委員の主な意見）

- ・ 戦争体験の収集は、今後、戦後復興時の体験を集めることがメインになるため、5年後、10年後に集めようとしても遅い。
- ・ 資料を収集する際に、その資料にまつわるエピソードや寄贈者の戦争体験、家族である場合は聞いていた話などを詳しく聞き取っておくことが重要だ。
- ・ 女子挺身隊や学徒動員、八幡の大空襲を経験した人も90歳を過ぎている。その人から話を聞いて残すことは非常に難しいので、原爆資料館では、体験を聞いて、引き継ぐことを行っている。

今後の方向性

- 戦後復興期の体験談収集の着手
- 資料の寄贈等、様々な機会を通じた体験談の聞き取りの実施
- 様々な手法を活用した体験談の保存や継承方法の構築

(仮称) 平和資料館基本計画 (抜粋)

1 展示計画

(1) 展示対象

○時 代 戦前（大正末期）から戦後、北九州市が誕生する（昭和38年）まで

○テーマ 戦争により大きく変った人々の暮らし・“まち”の様子

北九州を襲った空襲の被害、原子爆弾と小倉

戦後、復興を果たした“まち”の様子

(2) 展示方針

○来館者が体験・体感でき、映像・音響設備を活用した効果的な展示

プロジェクションマッピング等、映像・音響技術を駆使した展示やハンズオン（実際に手に触れる）展示等、五感を通じて、心に残るような展示を行う。

○事実に基づいた正確でわかりやすい展示

“戦争を知らない世代”が“戦争を知らない世代”に“知らない戦争”を伝えるため、「事実」を様々な世代に分かりやすく伝えることを重視する。

○子供たちの目線に立った展示

戦争に大きく影響された子供たちの暮らしや心情を実感できるよう、来館する子供たちの目線に立った展示を行う。

(3) 展示ゾーニング



平和のまちミュージアム開館に向けたPR等

【令和3年度】

2月（初旬）

PR・情報発信の開始

- ・SNSによる情報発信(ホームページ、LINE等)
- ・チラシ配布（学校・地域等）
- ・ポスター掲示（学校・地域等）
- ・市政だより・新聞広告の掲載
- ・市外の小中学生の修学旅行・社会科見学誘致 等

【令和4年度】

4月（中旬）

内覧会の開催

4月（下旬）

平和のまちミュージアム開館・開館式典

【開館後の自主事業（案）】

- ・開館記念特別展、企画展
- ・小学生向け平和学習カリキュラムの構築・見学ツアー
- ・近隣の歴史・文化施設周遊ツアー
- ・夏休み期間中の親子講座 等